

## ○研究プロジェクト 「企業とコミュニティ研究会」

開催責任者 経営学部 川北真紀子

2023年8月～2024年2月



研究プロジェクトは以下のとおり、開催された。

### ◇研究目標

企業経営において地域コミュニティとの関わりの実践と、それらの活動が従業員の働きがいや心身の健康の増進・維持にどのように関わるかを明らかにすることを研究の目的とする。そのため本年度は、地域貢献活動や健康経営に積極的に取り組んでいる企業の経営者にヒアリング調査を実施し、具体的な活動やその背景にある経営の理念、および地域や社会への向き合い方などを把握する。

### ◇研究プロジェクト日程

#### 2023年8月18日（金）企業訪問・ヒアリング（以下の2社を訪問）

- ① 大橋運輸株式会社：代表取締役社長 鍋嶋氏 へのヒアリング
- ② 三幸土木株式会社：代表取締役社長 木下氏、企画部長 宮路氏 へのヒアリング

#### 2023年8月19日（土）研究会 南山大学

第1報告 報告者：澤端智良（茨城キリスト教大学経営学部准教授）

報告タイトル：「コミュニティ」とは何か？

第2報告 報告者：川北真紀子（南山大学経営学部教授）

報告タイトル：コミュニティ・リレーションズ

### 2024年2月15日(木) 企業訪問・ヒアリング

(株) あつみ編集舎 取締役編集長 青山氏 へのヒアリング

### 2024年2月16日(金) 鶏舎見学・ヒアリング、および研究会

① 鶏舎見学および(株) 渥美フーズ 代表取締役社長 渡会氏 へのヒアリング

② 研究会 コミュニケーションモール レイ

・橋本康治 「地方創生への思い: 農山漁村応援隊合同会社・(一社) Well-being in Nature の事業概要説明」

・澤端智良 「なぜ企業が地域貢献に関わるのか: 企業と自治体の連携協定に着目して」

・熊倉利和 「ホワイト企業の地域貢献活動」

・川北眞紀子 「組織アイデンティティとコミュニティ・リレーションズ」

### 2024年2月17日(土) 視察

コミュニケーションモール・レイの映画イベントに参加

#### ◇研究プロジェクト内容

本研究プロジェクトでは、愛知県に本社を置く4つの地域貢献企業・健康経営企業の現地視察と代表者へのヒアリング調査、および2回の研究会を実施した。これらの調査や研究会を通じて、主に以下の点を明らかにすることができた。

まず企業へのヒアリング調査からは、それぞれの経営者が企業活動を通じて地域社会にどのように貢献できるかや、従業員の健康(心と身体の健康)をどのように保つことができるかについて真摯に取り組んでいる状況が把握できた。各社に共通して見られた特徴は、経営理念に基づき活動していること、および本業との関連性を重視していることである。各社とも非常に多くの施策に取り組んでいるが、地域貢献活動においてその特徴がよく表れている。

大橋運輸株式会社では「仕事を通じてお客様や地域に貢献する」という理念に基づき、交通安全教室への協力や、地域の防犯活動に関わる取り組み(特殊詐欺撲滅に関わるチラシの配布)など、運輸事業と関連性の高いテーマを中心に様々な地域課題・社会課題の解決に取り組んでいる。

三幸土木株式会社では、災害時には地域の避難・復興の拠点として機能する「レジリエンスセンター」を新社屋として開設し、「社会生活の基盤を支える地域建設業として、災害時の復興拠点でありたい」との想いを体現している。

渥美半島を中心にスーパーや飲食店を展開する株式会社渥美フーズは、「働き手よし、売り手よし、買い手よし、世間よし、自然よし」の「五方良し」を理念とした経営を行っている。「2035年 渥美半島エコガーデンシティ構想」を掲げ、スーパーの惣菜コーナーや食堂から出た食物残渣や廃棄食材を餌に鶏を育て、その鶏が産んだ卵を「めぐるたまご」として

販売するなど、「エコサークルな社会」を目指す様々な活動に取り組んでいる。加えて、田原市の旧渥美町地域で地元住民に長年親しまれてきた複合商業施設の閉店を受け、株式会社あつみ編集舎（渥美フーズの渡会社長が代表を務める）がそれを買い取り、エコツーリズムや移住促進などに関わる新たな拠点としてのリニューアルオープンへ向けて準備を進めているということであった。

健康経営に関しても、今回取材をした各社が運輸・土木・小売といった、一般的には労働環境が厳しいと見なされる業種であるからこそ、従業員の健康や働きやすさの実現により積極的に取り組んでいることも考えられる。いずれにせよ、各社の様々な取り組みや経営スタイルは、今後の企業の在り方や地域・社会とのより良い関係づくりに関して様々な示唆を与えてくれるものであった。

また研究会においても上記のヒアリング結果を踏まえ、企業が地域貢献活動に取り組む意義や健康経営企業に見られる共通点、それらの取り組みを通じた企業内外へのコミュニケーション活動の在り方等について、理論と実践両面から活発な議論がなされた。これらの研究会での報告および議論は、澤端（2023）、川北（2024）の成果へと結びついており、今後の研究にもつながる多くの示唆を得ることが出来た。次年度以降も「健康経営を通じた、企業とコミュニティの良好な関係づくり」に関する調査・研究を続けていく予定である。

#### ◇研究成果発表

澤端智良、「企業による地域コミュニティ機能の補完的役割－自治体との包括連携協定に着目して－」、茨城キリスト教大学紀要 II.社会・自然科学（57）105-123、2023年12月。

川北眞紀子、「”企業らしさ”とは何か－広報研究から見た経営理念、組織アイデンティティ－」、南山経営研究 38（3）335-353、2024年3月。